



二十六聖人



第1留 イエス 死刑を宣告される



第2留 イエス 十字架をになう



第3留 イエス 初めて倒れる



第4留 イエス 母マリアに出会う



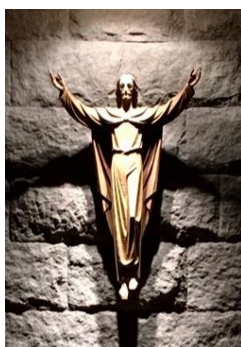
第5留 イエス クレネのシモンのを助ける



第6留 イエス ペロニカより 布を受ける



第7留 イエス 再び 倒れる



復活のための道行



第8留 イエス エルサレムの婦人を慰める



第9留 イエス 三度 倒れる



第10留 イエス 衣をはがされる



第11留 イエス 十字架につけられる



第12留 イエス 十字架上で 息をきとる



第13留 イエス 十字架上から 降るされる



第14留 イエス 墓に 葬られる

巻頭言：平和のうちに

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。(ヨハネ 20, 19)

平和のうちに、

イエス様こそ、わたしたちの平和。

わたしたちはイエス様のものだから、

後の人々のためにも、

生み出そう、キリストの平和。

血を流して証しした十字架の平和。

西坂の人々の平和、主の平和が皆様と共にありますように。

主任司祭 ヤコブ姜 真求



2025年3月（3月2日開催）

【検討・報告事項】

1. 二俣川教会出身ナン助祭の司祭叙階式
当教会から新司祭が誕生することに感謝し、叙階までの歩みを共にするためのプロジェクトチームを立ち上げることにしました。また、8月にベトナムで行われる叙階式に参加するツアーを計画しています。
2. ルカ枇杷晃平助祭の司祭叙階式
3月20日に保土ヶ谷教会で執り行われる叙階式のために、同じ第3地区の教会として当教会も聖歌隊、インターファミリー、教会学校・青年会、会場整理ボランティアなどが準備を進めています。
3. 司祭居住スペース(3階)リビングルームの二重窓化
復活祭後、三階司祭館のリビングルームとベランダを隔てる窓を二重窓に改造することになりました。冷暖房効率向上により住環境が改善されるとともに、大きな省エネ効果が期待できます。
4. 教会事務所運営方針
「カトリック二俣川教会事務所の業務・労務管理に関する職務規程」(2014年発効)に替わるものとして「カトリック二俣川教会事務所運営方針」を制定しました。
5. 地区担当教会副委員長新設
地区世話人連絡員の窓口とするため、2025年から教会委員会副委員長1名を地

区担当に充てることにしました。初代地区担当はH副委員長です。

6. 2055年委員会(仮称)立上げ
二俣川教会献堂から60年を経て私達を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。この変化に対応するため、長期的視点で共同体の姿と課題を考える常設委員会「2055年委員会(仮称)」を立ち上げることにしました。現在の活動の中心メンバーだけでなく、30年後に二俣川教会共同体を担うであろう方々にも参加を呼び掛けて行きます。
7. 教会委員会メンバーの霊的交わり
4月6日の教会委員会の後に、教会委員会メンバーで十字架の道行を行い、ご復活祭への準備の1つとします。

【各会報告】

1. 典礼委員会
 - ・4月3日(木) ベネディクション 19時
(聖体賛美式)
 - ・4月6日(日) 水の祝別(10時ミサの中で)
 - ・4月13日(日) 受難の主日(枝の主日)
 - ・4月17日(木) 聖木曜日(主の晩餐)
19時 洗足式
 - ・4月18日(金) 14時～十字架の道行き
聖金曜日(主の受難)19時
 - ・4月19日(土) 聖土曜日(復活徹夜祭)19時
 - ・4月20日(日) 復活の主日 幼児洗礼予定

2. 教会学校

・初聖体クラス 8名の子どもたちが勉強会に参加しています。原則として、日曜日の10時ミサ前に勉強会を行っていますが、この時間に出席できない子どもたちのために土曜日に補講を行います(2/22、3/8、4/12 15:00~の予定)。初聖体のために頑張っている子どもたちのためにお祈りをお願いいたします。

・2月、3月の教会学校

2/16 教会学校・初聖体クラス

3/2 教会学校(ゆるしの秘跡)・初聖体クラス

3/9 侍者会・初聖体クラス

3/16 教会学校・初聖体クラス 10:00

ミサの中で修了式・卒業式(卒業対象:

小6は4名 中3は1名 高3は5名)

・2025年度教会学校のテーマ「イエスさまがいちばん!!」

歌を通してイエス様をもっとよく知る、子どもとともに捧げるミサの拝領で歌う

・2025年度の教会学校案内 3/16に配布 欠席者には世帯毎に郵送

3. キリスト教講座

・4/12(土)から入門講座開講、月二回

・2024年待降節黙想会で講話頂いたシスター小野のビデオ視聴(全24回)を月2回10時ミサ後に計画します。

4. 広報委員会

「二十六聖人」4月号で通常聖年シリーズを続けます。また、黙想会報告をキリスト教講座に依頼する予定です。

5. 共同墓地委員会

・実績 2/9 共同墓地管理委員会実施、共同墓地利用申請者3名(現在手続き中)

・3月予定 3/9 四教会合同共同墓地委員会、2/9 共同墓地管理委員会

6. ヨゼフ会

・2/9 例会、2/23 コーヒー光実施

・3/4 コーヒー光、例会予定

7. マリア会

・ステラマリス帽子を編む会への毛糸の献品に感謝します。

・報告

アンナ会 2/10、17 活動

ステラマリス帽子を編む会 2/21 活動

ボリビア支援グループ 2/23「のんびり日曜日」

・予定

3/3 運営委員会議会

アンナ会 3/10、24 活動

ステラマリス帽子を編む会 3/21、27 活動

ボリビア支援グループ 3/7 会議、3/16「のんびり日曜日」

パーティー係 3月末 会議

8. 青年会

2/1に第三地区中高生夏合宿のスタッフを対象に姜神父様、枇杷助祭、ナン助祭を招いて黙想会を行いました。

9. インターファミリー

枇杷助祭の3/20 司祭叙階式に向けて出し物を準備中です。

以上

3月20日『枇杷助祭司祭叙階式レポート』

澄み渡る青空の下、保土ヶ谷教会で60年ぶりに新司祭が誕生しました。叙階式は、聖年の公式聖歌である「希望の巡礼者」を入堂の聖歌として始まりました。読まれた福音箇所は、枇杷新司祭が叙階の聖句として選んだ「光は暗闇の中で輝いている」ヨハネ1・5が含まれる、ヨハネ1・1-5,9-14,16-18でした。いよいよ叙階の儀。受階者を推薦するため名前を呼んだのは、御年92歳の元保土ヶ谷教会主任司祭のケンズ神父様。枇杷助祭の明瞭な「はい」との声が響き、大きな賛同の拍手が溢れました。小学生の時に洗礼を受け、初聖体をいただいた、まさにその場所で今はひれ伏して神の前にすべてを捧げる様子に、神様のみわざと祝福を感じました。いわゆる古くからの聖堂の形といえる保土ヶ谷教会の聖堂は、司祭団がその祭壇を囲む



ように座る形となり、囲んだその食卓の真ん中で助祭が司祭となり、司祭団に迎えられました。司教様は説教や挨拶の中で、度々ナン助祭とグエップ助祭のことにも触れられ、神学生の時のようにこれからも3人が司祭として歩む中で助け合っていくことを願っておられました。

叙階式の後、枇杷新司祭のお母様が作られたケーキが配られ、祝賀会はアットホームで親しみのあるお祝いの会となりました。そして冒頭で早速、枇杷新司祭の復活祭後の赴任地が雪ノ下教会と発表されました。大磯教会の歌のプレゼント、二俣川教会からはインターファミリーを中心としたメンバーと姜神父様のギター伴奏で「Spirit song」と「In his time」を歌いました。山手教会の教会学校の歌、神学生たちの「主の召しあれば」の歌唱。ナン助祭とグエップ助祭からのビデオメッセージ。青少年デスクからのプレゼント等々。盛りだくさんのお祝いとなりました。終盤、枇杷新司祭による「ガリラヤの風かおる丘で」の歌唱は、保土ヶ谷の丘を越え、これから広くどこまでも吹き抜けていく風のように感動的なものでした。次号では、枇杷新司祭からのメッセージを掲載予定です。枇杷新司祭のこれからの司祭としての歩みのために、お祈りして参りましょう。



「ナン助祭の司祭叙階に向けて共に歩む会」発足のお知らせ

8月、当教会からナン新司祭が誕生することに感謝し、叙階までの歩みを共にするためのプロジェクトチームを立ち上げました。これは、10月に予定される(詳細未定)二俣川教会での初ミサに至るまでのプロジェクトです。姜神父様も話されたとおり、私たちには2016年の牧山神父様の時や先日の枇杷神父様の叙階式のような、物理的な叙階式の準備はありません。だからこそ、ベトナムと日本という距離を超えて、霊的な準備をどのように進めるかというプロセスを大切にしたいと思います。結果は神様に委ねる心で、皆さんの知恵と祈りの力を集めて頑張ってください。また、8月4日に予定されているベトナムでの叙階式に参加するツアーを計画しています。4月初旬には詳細をご案内しますので、ぜひご参加ください。

60 周年シリーズ最終回は『さあ、未来へ！～今を生きる教会～』です。10 年前、献堂 50 周年の折に作成した動画「50 年の歩み」をあらためて視聴し、感じたこと、この 10 年への想い、そしてこれからの教会への想いや決心を数名の 30 代信徒に聞いてみました。今後、番外編として 20 代、また、もっと幅広い世代の皆さんにも聞いていきたいテーマです。



私の二俣川教会の記憶は幼少期、祖父母の家に行くとき訪れていたことに始まります。祖父母や父が教会の力になろうと、皆さんと歩んだ歴史を知り、今私がここにいるのは、幼い私が献堂式で出会った復活のイエス様が呼んでくださったように感じます。この 10 年、コロナ禍の出産・育児で子供たちを教会に通わせたいと願うも、通えばやんちゃな子供たちに悩みましたが、神父様や信徒の皆さんの温かい支えのおかげで、子供たちは教会を家のように感じています。これからも彼らの帰る場所であるよう、招かれた私にできることを神様の声を聴きながら歩いていきたいです。



二俣川教会ができた理由、ドバール神父様が作ってくださったことを知り、これからも二俣川教会の家族みんなで大切に守っていかなければならないと思いました。自身の二俣川教会での初めてのごミサは、姜神父様が二俣川教会に来られて「ただいま」とお話されていた日でしたので、姜神父様との出会いで始まったという想いが強くあります。今回姜神父様が離れてしまうことがとても寂しいです。そして、生活の中に当たり前になり二俣川教会がありますが、二俣川教会が存在する理由とたくさんの方が支え助け合い、今があるということを忘れずに、神様と向き合い続けなければならないと思いました。



二俣川教会の歴史を見ると、多くの神父様方とともに歩んできたことを改めて感じます。それぞれの時代に、それぞれの出会いがあり、そのすべてが今の教会を形作っているのだと思うと、感謝の念が湧いてきます。とりわけ、コロナ禍を経て、信仰を守り、支え合ってきたことの尊さを実感します。この 10 年を振り返ると、多くの変化がありました。李神父様との別れ、笹氣神父様との短いながらも濃い時間、姜神父様とともに歩んだ日々どれも忘れられない大切な時間です。特に、姜神父様の銀祝やパパ様の来日など、喜びも多くありました。一方で、コロナ禍では制約の中での信仰生活を経験し、共に祈ることの大切さを再認識しました。これからの二俣川教会がどのような道を歩んでいくのか、私たち一人ひとりの関わり方が大切になると思います。これまでの歩みを大切にしつつ、新たな時代に向けて、信仰の灯を絶やさぬように努めていきたいです。共に祈り、支え合いながら、これからも歩いていけるように決心を新たにします。



私たちの二俣川教会は、とても小さなお家から始まったという事。その小さなお家が、今はとても素敵なお家に…教会になっているという事。沢山の神父様をはじめ、沢山の信徒の皆さんが支えていることを感じました。この 10 年は、2018 年、カトリック山手教会でアルフレッド・バーク神父様の葬儀ミサ・告別式に参列した事。2019 年にフランシスコ教皇様が

来日され、関口教会でフランシスコ教皇様と青年の集いに参加し、その後東京ドームでのミサに参加したこと。2020年以降、全世界のカトリック教会で新型コロナウイルスと共存し、感染予防や対策をしながら、コロナ前の日常に近づく事が出来るように祈りながら日々、生活していることが心に残っています。これからの教会に向けた想いとしては、もっと子どもたちが、教会の奉仕に参加して、ずっと参加し続けてくれることを願います。私は、それらを経験してきた先輩として、これからも子どもたちを見守り、自分自身も典礼奉仕を通して少しでも、神様に奉仕し、教会を支えていきたいと思えます。



こうしてあらためて二俣川教会の歴史を目にすると、私自身、今やこの60年という歴史の一部となっていることを感じます。そして、支えられてきたことを感じ、感謝の気持ちが溢れます。フッと2025年の今、イチから二俣川教会をはじめるとしたら、何を一番大切にしていけるのかな？と考えました。目に浮かぶのは、すごく素朴に様々な人々が、神様を真ん中に集っている様子です。いつも、そこから始めたいです。「…Today is a gift. That's why it's called the present.」「今日は贈り物。だから“今”を“プレゼント”と呼ぶ。」という言葉があります。大切なのは関わってきた時間の長さではなく、過去からどんな贈り物ももらい、今の教会でどのように生きるかだと思います。私は、後輩たちにプレゼントを渡せるように奉仕していきたいです。プレゼントなのだからそれは自分ではなく、神様はもちろん、後輩たちが喜ぶものでなければと思います。そんな気持ちをもってこれから頑張りたいことは、青年へと繋がる中高生の信仰教育と、子育て&働き世代の霊的時間の作り方です。福音の分かち合いや祈りによっていただける個人の霊的気づきによる喜びと、仲間としてこそ感じるその真ん中に立ってくださる神様のお恵み。その両方を糧に、これからも歩み続けたいと思えます。



改めて二俣川教会の歴史に触れ、自分が知らない歴史の次に自分が携わる歴史があることに、嬉しい気持ちになりました。この10年で、私は結婚し妊娠・出産を経て親になりました。これからもずっと二俣川教会があり、子どもたちにとっても、教会がもう一つの家、そして信者の皆さんを家族の様に感じてくれたらいいなと思います。そして私自身は忙しい中でも派遣されていることを意識し、「神様が喜んでくれること」を考え、周りに目を向け感謝の気持ちを持って日々過ごせようように。

～ 祝 100 歳、遠くフランスの地のドバール神父様に想いを寄せて ～

聖堂に入る右側のドアの横に置かれた聖書をご存知でしょうか？この聖書は1965年、私財を投じて二俣川教会を献堂された初代主任司祭、ドバール神父様が愛用されていたもので、ご自身の叙階60周年の記念として「親愛なる二俣川教会の皆様へ」と、遠くフランス・リヨンより寄贈して下さったものです。

今年100歳のお誕生日を迎えられるドバール神父様の為に、感謝の祈りを捧げましょう。特別な贈り物に込められたドバール神父様の想いをあらためて感じたいと思えます。



聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年
特集
Vol.3

4 聖パウロはきわめて現実家です。人生は喜びと苦しみが織りなすものだということ、愛は問題

が増すとき試練に遭うということ、希望は苦しみの前ではついえそうになるものだということを知っています。それでもこう書いています。「(わたしたちは)苦難をも誇りとしませす。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」(ローマ5・3-4)。使徒パウロにすれば、艱難と苦しみは、無理解と迫害の中で福音をのべ伝える人にとって典型的な条件なのです(二コリント6・3-10 参照)。けれどもこのような状況において、闇の中に光を見いだすのです。福音宣教が、キリストの十字架と復活から生じる力によって、どれほど支えられているかが見えてくるのです。そこから、希望と密接に結びついた徳、すなわち忍耐が鍛えられていくのです。つねに慌ただしくあることが当たり前となった世界では、わたしたちは何でもすぐに欲しがることに慣れてしまっています。人と会う時間をもてず、家庭でさえ、一緒にいて和やかにおしゃべりしたりすることが難しくなっています。忍耐は慌ただしさによって追い払われ、人々に深刻な損害を与えています。事実、不寛容、いらだち、時としていわれのない暴力となって、不満とかたくなさを生み出しています。

さらに、時間も空間も「今ここで」という

考えに支配されているインターネットの時代にあつて、忍耐は歓迎されません。被造界をなおも驚きの目をもって眺めることができるなら、忍耐がどれほど決定的なものであるかを理解することができるでしょう。季節の移り変わりをその実りとともに待つこと、動物の生態や成長過程を観察すること、聖フランシスコの素朴なまなざしをもつこと。彼は、ちょうど八百年前に書かれた「兄弟なる太陽の賛歌」の中で、被造界を一つの大家族とみなし、太陽を「兄弟」、月を「姉妹」と呼びました(2)。忍耐を再発見することは、自分にとっても他者にとっても、とてもよいことです。聖パウロは、神がわたしたちに約束してくださったことに対する辛抱強さと信頼の大切さを強調するために、何度も忍耐の語を用いています。しかし何よりも、神はわたしたちに対して忍耐強くあられるかた、「忍耐と慰めの神」(ローマ15・5 参照)であるとかししています。聖霊の実でもある忍耐は、希望を生き生きと保たせ、それを徳としても生き方としても強めてくれます。ですから、希望の娘でありつつ、希望を支えてくれる忍耐の恵みをしばしば願い求めることを学びましょう。

希望の道

5 このように希望と忍耐が影響し合うことから、次のことが明らかになります。つまり、キリスト者の人生は、目的地である主キリストとの出会いを垣間見せてくれるかけがえのない伴侶、すなわち希望を養い強める絶

好の機会をも必要とする旅路だということ
です。わたしは、紀元 1300 年の最初の聖年の
公布には、それに先立って、民間の靈性によ
って鼓舞された恵みの道程があったというこ
とに思いを馳せるのが好きです。実際、ゆる
しの恵みが神の忠実な聖なる民に豊かに注が
れる形態は、さまざまであったということ
を忘れるわけにはいきません。たとえば、教皇
ボニファツィオ八世が聖年を定める六年前の
1294 年 8 月 28 日と 29 日に聖チェレステ
ィノ五世教皇が、アクイラのサンタ・マリ
ア・ディ・コレマツジヨ大聖堂を訪れる人々
に与えることを望んだ大いなる「ゆるし」が
挙げられます。つまり教会はすでに、いつく
しみという聖年の恵みを経験していたので
す。またそれ以前の 1216 年に教皇ホノリウ
ス三世は、8 月の 1 日と 2 日にポルツィウン
クラ聖堂（訳注：聖フランシスコが修復し、
活動の拠点とした聖堂）を訪問した者に対す
る免償を願い出た聖フランシスコの嘆願を受
け入れました。サンティアゴ・デ・コンポス
テラへの巡礼についても同じです。1122
年、教皇カリスト二世は、使徒ヤコブの祝日
が主日と重なるたび、この巡礼所で聖年を祝
うことを許可しました。聖年のこうした「広
がりをもった」祝い方が続くのはよいこと
です。それは、神のゆるしの力が、共同体と
個々人の歩みを支え、寄り添うことになるか
らです。

巡礼が、聖年のすべての行事の基本要素
あることは偶然ではありません。旅に出るこ
とは、人生の意味を探し求める人の特徴で
す。徒歩巡礼は、沈黙、苦勞、いちばん大切
な物事、それらの価値の再発見に大いに有益
です。来年も希望の巡礼者たちは、聖年の体
験を充実させるため、古くからの道や現代の
道を歩んで行くはずで、ローマ市内にも、
カタコンベへの道や七巡礼聖堂への道といっ
た伝統的な行程のほか、信仰の道が数々設

けられます。国境が取り払われたかのように
一つの国からほかの国へと渡り、目を凝らし
て自然界や芸術作品を眺めつつ町から町へと
移動していくことによって、さまざまな体験
や文化が宝として、自らの内に残る美となる
でしょう。その美が祈りと調べを合わせ
ると、なし遂げられた驚きのわざゆえの神への
感謝へと至ります。巡礼路沿いやローマ市内
の聖年指定聖堂は、信仰の道での英気を養
い、希望の泉で喉をうるおす、靈性のオアシ
スになるはずで、そのためにはまず、まこ
との回心の歩みに欠かせない出発点である、
和解の秘跡を受けることです。部分教会にお
いては、司祭と信徒がゆるしの秘跡に備え、
個別にそれを受けやすくするよう、特別に配
慮することが必要です。

この巡礼には、とりわけ東方教会の信者
を、なかでもペトロの後継者との完全な交
わりにあるかたがたを招きたいと思っていま
す。彼らは、キリストと教会への忠実さゆえ
に、死に至ることも少なくないほどの苦しみ
を味わっておられます。ですからここローマ
に、特別に歓迎されていると感じるはずで
す。ローマは、彼らにとっても母であり、彼
らの存在の多くの記録を大切にとどめている
からです。東方の古代の典礼と、教父、修道
者、神学者の神学と靈性によって豊かにされ
たカトリック教会は、彼らとその正教会の兄
弟姉妹への歓迎の気持ちを象徴的に表したい
と思っています。彼らは、暴力や不安定な情
勢のため安全な土地へ向かって、自分たちの
土地を、自分たちの聖なる地を離れざるを
えず、すでに十字架の道行という巡礼を体験
する時代にいます。彼らにとって、彼らを見
捨てることなく、どこへ行こうともいつも寄
り添ってくれる教会に愛されているという体
験は、聖年のしるしをさらに強いものにする
のです。(2) 聖フランシスコ「兄弟なる太陽の賛歌」

(Sources Franciscaines, n. 263.6.10
[石井健吾訳、『続・アシジの聖フランシ
スコの小さき花』聖母の騎士社、1995 年、
197-198 頁]) 参照。

「四旬節・黙想会参加記」



3月8日、粉雪の舞う二俣川教会にて四旬節黙想会が開かれました。昨年の降誕節の前に神様から新たな信仰の旅路を示して頂いたものの、最初の一步を踏み出す決心がついていなかった私は「西村神父様のお話を伺って黙想会の神秘に力を頂きたい」と思い参加させて頂きました。

西村神父様のご講話は、私たちに靈的な養いを豊かに与えてくださるものでした。イエス様の火と霊の洗礼によって頂いたお恵みと愛、イエス様の十字架の死によって贖われた私たちの罪が意味することは何かを「思い起こすこと」、断食や節制はダイエットではなく日々の労苦・重荷・試練を信仰・希望・愛へと繋げる

「対神徳」の実践であること、これらのことは常に「聖霊来てください」と求めて実現すること、四旬節に赦しの秘跡が必要な理由等々…

時には温かく穏やかに、時には身近な例や優しいユーモアを交えて教えて下さる西村神父様のお話しにどんどん引き込まれ、あっという間の1時間半でした。

個人的に一番嬉しかったのは「イエス様の十字架を背負うことの意味」を学べたことです。今まで上記の労苦などを指すものだけだと漠然と捉えていましたが、その先にある「罪の贖い」「救い」「神様と同じ帰属になる喜び」までの総合的な道のりなのだという気づきを得ることができました。

また、「救い」「限りない神様の愛」に関連して、西村神父様の子どもたちの信仰生活への温かい眼差しを感じられたことも印象的でした。子育て中の方々にも大いに励みになる内容だと思いますので、ぜひ二俣川教会のYouTubeチャンネルで視聴してみてください。

ふと気がつけば雪は止み、二俣川教会に明るい光が差し込んでいます。マリア・ガーデンにうっすらと積もった粉雪が日の光に溶けて土へ染み込むように、私の心にふんわりと重なっていた四旬節の断片的な「知識」も、私のからし種を包む土に溶けて染み込んでいくのを感じました。その後、赦しの秘跡と皆さまとの温かい交流を終えて教会を後にする時、「聖霊が私たちを満たして下さった」「もう大丈夫。私は新しい旅に出ることができる。神様、ありがとう。」という気持ちでどこからともなく生まれてきました。

四旬節について、今までは自分なりに色々考えて過ごしていたつもりでした。でも、今年は共同体の黙想会に参加したお陰で、今までと比較にならないほどの味わい深いお恵みをいただいて四旬節をスタートすることができました。

遠路はるばるいらして、私たちにたくさんの気づきを下さった西村神父様、黙想会を企画して下さった姜神父様と兄弟姉妹の皆さま、ありがとうございました。神に感謝。

マグダラのマリア S. S.

2月9日 二十六聖人口ウソク行列 ～参加者の声②～

† 聖ディエゴ喜斎

初めての参加で不安もありましたが、とても感動し充実感を味わいました。最高齢で殉教に身を捧げ、小声でイエス・マリアと唱えて迷いを退け、深い信仰心で私達を神様の取り次ぎに適えて下さる聖人になられたことに感謝し、私も共同体の皆様の愛の中で過ごしたいと思いました。

† 聖パウロ茨木

今までより、二十六聖人を身近に感じることができました。たくさんの人に経験して欲しいと思います。二十六聖人を守護の聖人としている事を誇らしく思います。

† 聖ペトロ・バプチスタ

初めて日本二十六聖人の行列に参加させて頂き感動で胸がいっぱいになりました。私にはとても恐れ多い聖人のゼッケンをお預かりし、たいへん身の引き締まる思いがいたしました。フランススコ会のコムサリオでもあり、ハンセン病者の父とも仰がれ、弱い立場の方たちのために数え切れない程、献身的な活動をされた聖ペトロ・バプチスタ神父に倣って、イエス様への信仰がより強められます様に、これからも信仰の道を皆さまと共に歩んで行きたいと思います。

† 聖ガブリエル

私は、行列参加は今回、二回目の参加でした。日本二十六聖人殉教者の記念日のミサは入祭と閉祭の聖歌が特別な曲です。入祭の聖歌に合わせて歌いながら入堂した時、閉祭の聖歌を歌っている時心と胸がいっぱいでした。二十六聖人のひとりひとりのゼッケンをつけて口ウソクを持って、二俣川教会の守護の聖人の取次ぎの祈りができた事、行列参加をする事が出来て、私はとても嬉しかったです。

† 聖マチヤス

I am thankful for the experience to join the Saint candle procession of our church patron 26 martyrs to be representing Saint Matthias of Miyako. It was a great step that encourage me to search and to know them more.



† 聖ミカエル小崎

ミサの中で二十六聖人と同じように年齢や国籍を超えて歩き、ろうそくとお祈りを捧げることによって日本二十六聖人がより身近に感じられ、私たちの共同体のためにお祈りする力をより強めて頂けたと思います。聖トマス小崎のお父様として、教理教師として、修道院建築の助手として…共同体でも家庭でも神様から頂いた才能を活かして、愛と慈しみの信仰を証しされた聖ミカエル小崎様。年齢以外には何一つ近いところがない小さな私ですが、だからこそ聖人により頼む意味があるのだなあ…という気づきを得ることもできました。私がろうそくの行列に参加するのは今回2回目ですが、初回よりも二十六聖人の信仰により力を頂き、お祈りにたくさんの気持ちを向けられたと思います。皆さんも是非、次の機会にご参加されてみてはいかがでしょうか。

【4月の予定】

4/6 教会学校 2025年度の新しいクラスがスタートします！

時間は小中高生クラス9:00～、幼児クラス9:15～です。

4/13 初聖体クラス・侍者会

3/2 みんなで、『と』づくり

この春、私たちの教区から新しい神父様が生まれます。お名前は、ルカ枇杷晃平神父様。
(昨年の「夏のお楽しみ会」にもきてくださいましたね♪)お祝いのための飾りづくりに、
合同クラスで 取り組みました。



みんなで作ると、あっという間でした♪後日青年会の皆さんが『と』の文字に組み立ててくれたものを、写真に撮りました。各小教区からの文字を集めると、枇杷神父様がいちばん好きな聖歌、「ひとつになろう」というタイトルが出来上がるそうです。私たちの思いを込めた祈りのお花がたくさん咲きました。喜んでくださると良いですね。

後半は、『花さき山』という絵本の読み聞かせをしました。



主人公の10歳の女の子「あや」が妹のために自分の着物を買ってもらうのを我慢することで、花さき山に綺麗な花を咲かせることが出来た...というお話です。四旬節を過ごすにあたり大きなヒントを与えてくれる物語です。絵もとても素敵なので、ご家庭

でも是非読んでみてくださいね♪



教会の暦では、灰の水曜日(3/5)から四旬節がはじまりました。

ごミサでの神父様の祭服は【むらさき色】になりましたね。

私たちも、「お祈り・我慢・愛のおこない」の心を大切に過ごしましょう🙏

3/16 教会学校 修了&卒業式



教会学校に集まってくれたたくさんのお子様たち、そして付き添ったり・送り出してくださった保護者の皆様、一年間本当にありがとうございました。今年度の教会学校も無事終わることが出来ました。ごミサでは子どもたち一人一人の名前を呼んで、紹介しました。「皆いっしょに」という喜びを与えてくださる神様に、感謝します。来年度も楽しいプログラムを用意して、お待ちしております♪



わたしたちが、きょうかいがっこうのリーダーです
これからもいっしょに楽しく遊ぼう・学ぼうね♪



M. Y. Y. M. F. M.



N. M. Y. J.



K. R. W. L. H. A. M. Y.



皆で祈りましょう

復活祭を迎えるにあたり、新しい自分について考えてみましょう。
今、わたしのできることを……。

こころ へいわ ねが いの
心の平和を願う祈り

かみ
神よ、

わたしに^か変えることのできないものは、
それをすなおに^う受けいれるような^{こころ へいわ}心の平和を。
^か変えることのできるものは、それを^か変える^{ゆうき}勇気を。
そして^か変えられるものと^か変えられないものとの
^{みわ ちえ}見分ける知恵を、
このわたしにお^{あた}与えください。

(「ラインホールド・ニーバーの祈り」 より)

2025 年 聖週間の典礼



- 4月13日(日) 受難の主日(枝の主日)
- 4月17日(木) 聖木曜日(主の晩餐)19時～ ミサ(洗足式)
- 4月18日(金) 14時～十字架の道行き、聖金曜日(主の受難)19時～ 祭儀
- 4月19日(土) 聖土曜日(復活徹夜祭)19時～ ミサ
- 4月20日(日) 復活の主日(日中のミサ)10時～ ミサ(幼児洗礼予定)



マリア会通信 No. 149

聖アントニオ様って誰？

数年前だったでしょうか、忘れ物や落とし物が多くなったと私が落ち込んでいた時、友人が聖アントニオ様に祈るといいよと教えてくれました。えっ、アントニオ様？“彼”について私は全く関心がなくて、せっかく“彼”を教えてもらったのに、すっかりそのことも忘れて過ごしていました。でも最近になって、家の鍵を失くしたりお財布を落としたりと笑い話では済まない事態になり、再び聖アントニオ様を思い出すことになったのでした。

聖アントニオは司祭、教会博士で、1195年にポルトガルのリスボンで生まれ、修道司祭として36歳で亡くなるまでイタリアやフランスを巡って福音を伝え、多くの人々を回心に導いたと言われています。その彼が何故「物を失くした時の聖人」と呼ばれるようになったかについては定かではないのですが、彼の遺骸がイタリア・パドバの聖堂に安置されており、その墓で多くの奇跡が起こったと伝えられています。

もし、物を失くした時や見つからない時には、「聖アントニオ様！」と心の中で3回唱えると、奇跡のように失くした物や探している物が見つかるとのこと。不思議ですね。

私事で恐縮ですが、家の鍵も財布も無事に手元に戻ったことをここでご報告させていただきます。鍵は友人が保管していただき、財布は最寄りの警察署に届いていました。私は聖アントニオ様に祈ってはいないのですが、彼が活躍して下さったかどうかには関係なく、失くし物や落とし物をした時には、その日の行動を一度落ち着いて思い出し、失くしたり落としたりしたかなと思える場所をよく探すこと、それでも無ければ周りに助けをもらったり、交番に届け出たりするのが良いと思いました。

最後に聖アントニオの言葉を贈らせていただきます。皆様の道しるべとなりますように。『毎日があたかも最初の日であるかのように思って行動しなさい。そしてあなたが始めた最初の日と同じ熱意をもって常に行動しなさい。』

マリア会は今年2025年から、2ヶ月に1度くらいの頻度で定例会を開きたいと考えています。今のところ、最初の定例会は少し先になりますが、5月18日(日)を予定しておりますので、会員の皆様のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

マリア会 F. N.

7年間の感謝を込めて!!!

広報委員が選んだ… 巻頭言セレクション

◆新しい道を示してください (2019年7月号に掲載)

姜神父様は折に触れて、母国韓国の教会行事やものごとを紹介してくださいました。今から6年前の2019年7月号巻頭言は、韓国人として初めて最初に叙階なされた聖アンドレ金神父様の生涯を紹介しつつ、金神父様のことを考える度に、ご自身の司祭としての在り方を省みる、という内容でした。『司祭として歩んできた道とはどんな道だったのか、本当に神様と教会を愛しながら生きてきたのか、などを考えてみると悲しみや恥ずかしさだけが心に残ります』という一文は、当時叙階25年を迎えられた姜神父様の心の内を知り、神様の前で素直に自分を省みるってこういうことなのだなあ、と印象に残る巻頭言でした。常にそうでした。姜神父様は巻頭言のメッセージを通じて、わたしたち共同体に、神様の前でどう臨むか、をご自分の心を分かち合いながら示してくださいました。

◆架上七言 (2022年4月号に掲載)

『突然ですが、信者の皆さんは「架上七言」ということをご存知ですか。』という言葉で始まったこの巻頭言を読んだ時、四句節を過ごしていた私は、心のとても深いところに刺激を受け、感動を覚えました。クリスマスの聖誕物語のみならず、イエス様の十字架への道すらも、当たり前で聴く物語のようにしてしまっていた自分に気がついたからです。7つの言葉によって、イエス様との十字架の道に招かれた私は、これを是非、若い信者さんたちにも伝えたいと思い、始めたのが「音読巻頭言」(巻頭言を段落で分け、数名の青年が音読したものを録音して編集し、ご自分の目で読むことは難しくなった方に、巻頭言をお聞かせするもの)でした。

「架上七言」、これはイエス様が十字架上でおっしゃった御言葉で、7つの言葉を1つ1つ黙想してご復活への準備をするとのことでした。

その7つの言葉は…

- ①「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」ルカ23・34
- ②「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる。」ルカ23・43
- ③「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です。見なさい。あなたの母です。」ヨハネ19・26～27
- ④「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」マタイ27・46 (またはマルコ15・34)
- ⑤「渇く。」ヨハネ19・28
- ⑥「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」ルカ23・46
- ⑦「成し遂げられた。」ヨハネ19・30

です。これらを1つずつ、解説して下さったのがこの巻頭言でした。四句節にあっては「神様に惚れてください！四句節は魂の青春を取り戻す時。神様に惚れなおす時です」という姜神父様の言葉も心に残っています。音読巻頭言はその後約1年半の間、毎月続けられ若者たちが巻頭言を読み深めるきっかけにもなりました。姜神父様を通して神様が与えてくださったお恵みに感謝し、それらを胸にこれからも広報委員会の奉仕に励んでいきたいと思えます。

◆罪人の母である聖母マリア (2023年5月号に掲載)

姜神父様に『二十六聖人』の巻頭言執筆をお願いして「わかりました。書きましょう。」と言っていた時、その頃の広報メンバーは、これで「きっと今以上に良い教会誌ができる！」と確信したものでした。そしてそれからの数年間、外国の司祭がこれほどの日本語力で私たち信徒を導く文章を毎回書いてくださるとは、と舌を巻くことばかりでした。

今回、何故この聖母月の巻頭言を選ばせていただいたかということ、その理由はこの言葉にあります。『イエス様の復活を記念するこの復活節の間、聖母マリアの月を共に過ごすのは、とても意味深いことだ・・・』今年のご復活祭は4月20日と遅めですが、それはマリア様の月に近く、まさに復活節と聖母月が重なります。私は長い間信者として生活してきたのに、姜神父様がこうやって巻頭言に書いてくださらなかったら、主のご復活とマリア様の御助けとのつながりにも全く気づくことがなかったなんて、と大いに恥ずかしい思いをしています。

神父様は常に、ご自分のお母様への思いを胸に司牧に励まれていると感じます。今までの巻頭言でもそういう思いをお書きになっていたかと、勝手ながら私は思っていました。それはたぶん、マリア様への敬愛の気持ちでもあるのでしょうか。大切なお母様がお亡くなりになったのにコロナで韓国へ行くこともままならなかった時にはどれほど辛い思いをされたことか。

姜神父様、本当にありがとうございました。これからも巻頭言から学んだことを糧に歩んで参ります。神様のお見守りとマリア様のご加護が神父様の上にありますように！

お説教もまた、わたしたちの霊的な糧に…

お説教は起承転結の文体となっており、みことばを考える大きなヒントになりました。何事にも謙遜であるべきであるという強い信念を感じながら、私自身の生き方に影響を与えてくださいました。そして最後には必ず私たちのために祈ってくださいます。神父様の強いメッセージに導かれてきました。心より感謝しています。

「編集後記」

姜神父様はよく、私たち共同体に向けて「耳を傾け合い、理解し合い、受け入れ合い、赦し合い、愛し合いましょう！真の交わりを。その中にイエス様はいます」と訴えておられました。7年間耕していただいた共同体の交わりは、少しでも成長したでしょうか・・・神父様はお名前の通り「真」の神様の道を「求」めるお姿で私たちを司牧してくださいました。毎号『二十六聖人』作成についても、共同体の交わりの歩みの為に役立てるよう的確な助言をいただきました。教えていただいた様にこれからもイエス様を囲んで紙面づくりをしてまいります。

(K. A. 記)